

知恵の樹

No. 235 2019.5.28

町田の図書館活動をすすめる会
<https://machida-library.jimdo.com>

代表：手嶋 孝典
teitaka@f8.dion.ne.jp



チラシから

第8回まちだ図書館まつり〈2019年3月22日(金)～24日(日)〉

実施報告 & 反省会が行われました!

増山正子 (第8回実行委員長)

—はじめに—

早いもので8回目を迎えた「まちだ図書館まつり」は、実行委員会(17市民団体)、事務局(図書館児童担当の職員)といった官民協働の組織を組んで、無事盛会裏に終了しました。

第8回を行うにあたって、個人ボランティアに登録館に集まってもらって「まつり」の参画を呼び掛けようと、話し合いの機会を設けてもらいました。一握りのボランティアの反応に留まりましたが、その人たちが、鶴川地域図書館ボランティア、金森図書館ボランティア、堺図書館ボランティアといった名称でイベントに参画されたことや、中央図書館のボランティア有志がエントランスの当番にあたるなどの動きが見られ、うれしく思います。

しかし残念ながら、同じ活動グループの仲間が多くいる図書館の場合、そうしたグループに属さない個人から1人、2人と話し合いの参加を希望されましたが、希望者が少ないという事で会合は実現できず、個人登録ボランティアの問題を浮き彫りにしました。

第7回時、まつりをきっかけにボランティア会が発足した「さるびあ図書館」では、その後も、毎月勉強会などの会合を重ね、横の繋がりを深めながら第8回に臨み、職員と共に飾りつけをし、「まつり」の期間中さまざまなイベントを企画して楽しみました。こうした動きが今後各館に広がっていく

去る4月23日(木)14:00から2時間、中央図書館ホールにて参加団体実行委員16名と、市立図書館全8館の担当職員10名、総勢26名にて、表記の会が持たれた。これは、これまで次回まつりの説明会の席上行われていた反省会・報告会を独自に行って欲しいという、市民側の意向を汲んで下さって実現したものである。



ことを願ってのスタートでしたが・・・。

—実施報告—

事務局より、「まつり」3日間のイベント毎(全62企画)に集計された参加者数一覧表によると、大人1,266人(内子ども538人)で、一日約400人余と昨年度とほぼ同じ人数でした。しかし、この数は、イベント企画のスタッフは加算されていないため、1企画に少なくとも5、6人のスタッフが動いていたことから、イベント数からすると300人以上の参加があったこととなります。

また、図書館入館者の殆どが、飾りつけや展示等を目にしていることから、「図書館まつり」を知り、図書館をより身近に感じられたのではと思います。こうした人たちが、自分も図書館まつりに関わってみたいと思えるような呼びかけが出来る組織体制になればいいな、とも思います。



◇ 各館からの報告

これまで中央の事務局が一括して行っていた実施報告は、実施館の各担当職員がパワーポイントを使って反省点をも交え臨場感あふれる報告がありました。飾りつけも各館それぞれ工夫をして、ディスプレイが貸し出しにつながったという報告もありました。出席者の多くからは、全館を見たかった、との声が聴かれるほど、よりリアルに全体像を知ることが出来、職員の頑張りが見られました。

紙面の都合で、簡単にご報告いたします。

〈中央図書館〉ホールでは、連日様々なイベントを開催(255名の集客)／オープニング:近藤図書館長の挨拶の後、「春だよ〜…」をテーマに、4グループの「おはなし会→パネルシアター→草笛演奏(会場一丸になって)→草花あそび」を開催。近隣の保育園児も、草笛を吹いておはなし会を楽しんでいました。(参加者:子52・大人33)

⇒新しい試み、草笛の会の人たちが駆けつけてくれたのコロナでのオープニング、とても良かった!

ビブリオバトル:中学生4名・大学生1名のバトラーが繰り広げる「書評合戦」。チャンプ本に輝いた高須美優さんは、「知恵の樹」前号巻頭言に原稿を寄せてくれました。(参加者:子6・大人42)

中集会室 は、22日:ことばさがしゲーム(和光大

「まつり」の事務局を担当された
中央図書館児童担当のお二人にも
原稿を寄せてもらいました

「まちだ図書館まつり」は、ボランティアの皆さんの力が色濃く凝縮したおまつりであった。

「このゆび、とまれ〜!」のテーマを表現した力のこもった造形、楽しい世界へと誘うおはなしの数々、丁寧な調査と溢れる知識により作りだされた展示……。どれをとっても感嘆せずにはられないものばかりであった。また、エンディングイベン

学)、23日:読書会のたのしみ・講演会(まちだ史考会)、24日:地名の由来とお話、他(町田地方史研究会)など、展示と講演会が催され、会場に入りきれないほどの大人の参加がありました。

(3日間合計参加者:子21、大人153)

その他 エントランスには、素敵なおブジェ(赤ずきんの会)が、来館者を温かく迎えてくれました。

4F たからじまでは:フラッと来た子に、絵本やおはなしが出来るスタッフが常駐。(子63名と親)

〈さるびあ図書館〉(ボランティアが連日常駐)

町田市立第一・第四小学校の児童作品展示:好きな本の絵や文章の葉や絵画を約1カ月展示。

参加型おはなし会「劇あそび・(新聞紙をつかって)火事!・一緒に歌おう!」など、盛りだくさん。

〈鶴川図書館〉**子どもとおとなでおはなし会**(鶴川地域ボランティア)⇒小学生1名が読み手に。

〈鶴川駅前図書館〉**おはなしの世界を冒険しよう!**
～学生作品展～(鶴川女子短期大学)

〈金森図書館〉**中高生読み聞かせ隊が行うおはなし会～春のまき～**⇒今後も広がるのではという期待感!

大人のためのおはなしを楽しむ会⇒高齢者に好評!皆さん地域との交流を求めている。

〈堺図書館〉**おはなし会**(堺図書館おはなしボランティア会)

—これからを考える—

・ボランティアとのコミュニケーション、地域との拘留を大切にやっていきたい

・他館にも参加できるように開催日をずらして欲しい

・もっと、大人にターゲットを向けたまつりに

・利用者参加型にして、臨機応変なイベントを

・1年かけて少しずつ飾りつけの準備をしたい



トとして行われた「ビブリオバトル」では若い世代が本への熱い思いを存分に語ってくれた。若者の活字離れが叫ばれて久しいが、本好きな子たちの活躍を嬉しく、頼もしく感じた。

「まちだ図書館まつり」を開催するにあたっては

ボランティアの皆様には様々なご苦勞をおかけした
が、カウンターを出て皆様とともに仕事ができ
たことは、忙しくも楽しい時間であったと感謝し
ている。(佐藤)

今回、私はまつりの実行委員会の事務局及び
共催する図書館の担当として5回目を終えたこ
とになる。この間、子どもまつりから図書館まつりに
名称も変わり、子どもの読書活動関係だけでなく、
大人の読書会、近隣の大学等の団体も加わり少
しずつだが参加団体が増えてきている。

実行委員会では、年間10回以上にも及ぶ会議、
リハーサルなどのために図書館に足を運んで
いただいております。感謝の言葉を伝えれば「いつも
図書館には来ているから大丈夫ですよ」と、逆にこ
ちらを気遣ってくださる。

しかし、毎回まつりを終えて思うことは、まつりの
実行委員会としての考えの違いである。市民団
体側には企画も実行も常に図書館と「一緒に」考え、
「共に」行いたいと望んでいる様に思える。以前

のように時間も職員にも余裕があるならば図書館
もそうしたい。しかしもうそれは難しいのが現状だ。
図書館で事業を行うにあたり、どうしても公的機
関であるため民間事業よりも規制が厳しく、対応
にも時間がかかる。そこで機動力に勝る市民団
体の力を最大限借りて、計画からイベントの企
画・実行まで、できる限り市民団体に主体的に行
ってもらいたいと願っている。

例えば、一団体だけでは行うことが難しいような、
今年のオープニングイベント内容も豊富で楽し
く、今までの経験と活動力の凄さが感じられたイ
ベントが行えるように、図書館は事務局として会
議の準備や開催場所の提供、関係各所との調整
を担うことで支え、参加できればと思っている。

今後、もっと良いまつりにするために、それぞれ
の立場や考えを理解し尊重しあい、「一緒にやっ
てよかった」「これからも共にやっていきたい」と
いった関係を続けられるよう、お互いの思いや考
えに耳を傾け、その差をお互いが埋めていく努力
が必要であると思っている。(岡田)

こんな本み~つけた！(第16回) 月刊科学絵本「かがくのとも」

絵本を読んだ後、日頃見ているものが子ども
の目に新しく映るように。世界でも例がない月
刊科学絵本「かがくのとも」(福音館書店)が50周
年を迎えた」と、つい先ごろ新聞で記事を目にし
てうれしく思いました。

私は、普段、仲間と共に身近にある野原や林の
魅力を伝えるボランティア活動
をしています。残したい場所
が次々に消えていく中で、楽し
く、その「入り口」を伝えるた
めに、この本に助けてもらうこ
とが大切になっています。

私たちは季節の“旬”を伝えることを第一にし
ていますが、今なら『おとしぶみ』(岡島秀治 文/吉
谷昭憲 絵 1987年6月号)。柔らかな木の葉に一つ
卵を産んで、葉を折りたたんでくるくと巻いて、
幼虫が育つゆりかご(揺籃)を作る小さな虫ですが、
その巧みな技をわかりやすく克明に描いていま
す。幼虫が育つための食べられるゆりかごの内部



の様子も克明に。見えないものが見えてくると、
お母さんのたっぷりな愛情がしみじみと感じられ
て心が動かされます。

『おおぼこ』(菅原久夫 文/白根美代子 絵 1980年9
月号)も“旬”の一冊。春から夏にかけて葉っぱ
がどんどん大きくなって、その後、穂が伸び、小さ
な花がいっぱい咲きます。花が終わ
ると、実と種ができます。踏まれても
踏まれても元気にはっぱを広げて
いく秘密も本が明かしてくれます。
昔から身近にある草なので、伝承遊
びの紹介も。手に取って確かめてみ
ようと思うことがたくさん載っています。

通巻600冊にもなるという「かがくのとも」。身の回
りにあるものを知識ではなく物語に載せて伝える
子ども向けの科学絵本は、大人の私にも楽しく、
発見がいっぱい。絵本専門店や古本屋さんに行
くと、必ずバックナンバーのコーナーをのぞいてしま
う私です。(久保礼子/野津田・雑木林の会、当会会員)

かえで文庫 40 周年記念「講演会&おはなし会」開催！

5月19日（日）「10：30～ & 14：00～」

於：成瀬コミュニティセンター1階多目的室

文庫代表 伊藤倭子



れしいことです。

市村先生の講演会は、「ゆ～すりや
ゆ～すりや、かえでの木までゆ～すり

や～」と皆で手を繋いでわらべ歌を唄ってはじまり、幼稚園での実践から生まれた子どもたちの原画「おおきなおおきなおいも」(前述)を部屋いっぱいに広げて楽しみました。そして、子どもの魅力を9つ挙げられ、好きな絵本を何回も読んでもらいたがることから数多くのロングセラー絵本が生まれているとして『あおくときいろちゃん』『だるまちゃんどてんぐちゃん』『しょうぼうじどうしゃジプタ』などを紹介。読み方の注意点等についても、丁寧に話され、文庫に携わる者として、子どもと本の橋渡しの大切さを改めて学びました。

幸いにもかえで文庫は、ボランティアや地域人たちの温かい支えで、本のある子どもたちの良き居場所として維持されてきました。

平成 28 年にセンターがリニューアルした際、1室ではなく、自由に出入りできるフリースペースの1角に本のスペースが作られ、そこでの文庫活動を余儀なくされましたが、フリースペースだからこそその良い点を活かして、今後も、子どもたちに本の楽しさを伝えていく文庫活動を続けていきたいと思ひます。どうぞご支援のほどよろしくお願ひいたします。(団体会員)

昭和 54 年 9 月、旧南第二小学校跡地が成瀬センターとして開所した時、その 1 室を子どものための図書室にと、かえで文庫が誕生しました。図書館過疎地の成瀬に公立図書館ができることを願って文庫活動を続け、10年、20年が過ぎ、気が付けば40年の歳月が流れていました。

40年の間に、世の中は随分変わりました。

小さな文庫の開室日には、毎週大勢の子ども達がたのしみにやってきて、争うように本をとり、嬉しそうに借りて帰っていた時代が今はそのようです。書架の前に立っても本にはなかなか手が出ず、目はすぐに手の中のスマホのゲームに移り、夢中に…。

しかしこのような時代だからこそ、より子ども達の身近に本を！と願ひ、本と子どもをつなぐ場があることをとても大切に思ひます。

40年の節目として文庫活動の原点にかえろうと、標記の会を開きました、

午前は、長年幼児教育に携わり『おおきなおおきなおいも』(福音館書店)の原案者として知られる市村久子さんを講師にお迎へして「子どもの魅力、絵本の魅力」のお話を、午後は「かえで文庫のおはなし会— おはなし いっぱい —」で、文庫の40周年を祝いました。図書館長はじめ、図書館職員の方、語りに毎年行っている小学校の元校長先生、図書指導員の方たち、地域の方達など30人程がお祝ひに駆けつけて下さり、小さな文庫に暖かいエールを送って下さいました。う

～ かえで文庫 ～

場所：成瀬コミュニティセンター
図書コーナー

開室日：毎週水・土曜2時～4時30分

問合せ：伊藤 ☎042-725-3940

こんなに使える鶴川図書館！

まちだ未来の会 第21回学習会報告 鈴木 真佐世・守谷 信二

去る4月20日(土)午後2時～4時30分
第21回学習会が、鶴川市民センター和室(1)
にて、15名の参加により開催された。

(詳細は、「すすめる会」のホームページの「まちだ
未来の会のコーナー」を参照してください。)

I. 現在進めている取り組みについて

1. 議会報告:町田市議会 3月定例会から

a. 文教社会常任委員会(3月13日)の行政
報告 ①「生涯学習推進計画 2019-2023」の
策定について ⇒議員からの質問はなかった。

②「町田市立図書館のあり方見直し方針」の策定
について ⇒田中美穂議員とわたべ真美議員から
質問があった(詳細は下の「質疑概要」参照)。

③「町田市民文学館のあり方見直し方針」の策定
について ⇒議員からの質問はなかった。

<②の質疑概要>・田中議員(日本共産党)

Q:市民の声を聞きつつも市民の声に
応えているとは言えない。どのように
応えているのか?

A(副館長):2017年度の市民意識調査や
ワークショップでの意見を踏まえ、
地域にどのようなサービスが必要と
されているかを考えながら進めて
いる。Q:そこにあることが市民の
ニーズに応えることになる。また、
子どもの読書活動の推進を目標に
掲げているのなら、身近になくは
ならない。

URによる建替えが前提か?それ
までは存続か?

A(館長):あまりにも決まらない
或いは建て替えが中止になった
場合は、建替えとは切り離して
鶴川図書館の事を決めなくては
ならない。

意見:図書館と一緒に発展して
きた地元の声を聞いてほしい。

・わたべ議員(まちだ市民クラブ)

Q:団地再生が重要課題である中
での結論か?

A(館長):次の世代に負担を残し
てはいけないという観点からこの
ような結論に至った。

意見:さまざまな市民の小さな
意見から大きな観点が成り立っ
ているので、大きな観点というの

どのような観点か悩むところだ。

b. 本会議(3月15日～3月23日) 一般質問
・熊沢議員(自由民主党/3月19日)

Q:図書館のあり方について、英語
教育のために英語の本を増やして
ほしい。居場所としての図書館
について、出来るだけ会議室な
どを開放してほしい。

A(生涯学習部長):忠生の多目的
室は夏休み、試験前など、予定が
なければ開放。中央館も会議室
の開放を検討する。移動図書館
の巡回ルートを2019年度に検
討、英語の町田を目指して4,000
冊の外国語図書を所蔵、英語に
よるおはなし会実施。今後CD、
DVD付のものを収集予定。

・殿村議員(日本共産党/3月20日)

Q:「図書館のあり方見直し方針」
について、①生涯学習審議会
での審議内容について、②「
図書館のあり方見直し方針」の
内容について、③2つの請願採
択の結果をどのように「あり方
見直し方針」に反映させたのか、
④採択された請願の趣旨と市長
への要望(鶴川図書館)に沿っ
て図書館を存続させるべきだ
がどうか、⑤「町田市5ヵ年計
画17-21」、「町田市公共施設
再編計画」は抜本的に見直し、
「図書館のあり方」を再検討す
べきと考えるが、どうか。

A(部長):③の請願の結果をど
う反映させたのかという質問
に対し、地域住民の利便性を考
え、代替機能、地域のコミュニ
ティ支援を考えている。

Q:鶴川図書館と鶴川駅前図書
館、さるびあ図書館と中央図
書館をそれぞれ「集約する」と
いうことは、一方を無くすとい
うことか?

A(部長):2つを1つにすること
だ。

Q:市長にこの請願について議
会の中で意見を求めたら、「しっ
かりと重く受け止める」と答
弁した。それなのに請願の趣旨
が反映されていないのは答
弁に反する。

A(部長):請願が採択された
ということで図書館のサービス
の必要性は認識しているが、
公共施

設再編計画の取り組みでは全ての施設を維持するわけにはいかない。請願の趣旨の「図書館の存続」という点は反映できていないが、請願者が述べていた代替機能等を提供していくという部分で反映。意識調査も考慮したうえで定めた。(コメント:実際には請願者は代替機能については一切言及していないので、部長の答弁は明らかな間違い)

Q:多摩 26 市の中で、一人当たりの蔵書数がどうなっているか?

A(部長):いま手元に資料がない。のちほど。

Q:26 位。最低。市は、全国の同規模の自治体と比較するが、東京や町田に住んでいる人にとって比較対象は多摩地域。8 館から 6 館になったら、浮上できない。地域の重複を言うが、やっと 6 館から 8 館になったのに突然 8 館から 6 館に減らすことになった。第4期生涯学習審議会の委員はもろ手を挙げて賛成しているどころか、反対している委員も少なからずいた。たった 3 回、3 カ月でこの重要な内容の答申を出させ、教育委員会に出している。「重く受け止めている」というのはうそではないか? A(部長):前期を合わせれば、15 回でしっかり審議してもらった。

Q:それはおかしい。なぜ審議委員から異論が出るのか。図書館協議会の意見もその場で報告されたが、もっと充実すべきというものだった。答申の中には「鶴川図書館」、「さるびあ図書館」という言葉は入っていない。書けなかったのだ。そこに市民の声が入っている。最後に、鶴川図書館を利用している 4 年生の子が書いた文章を紹介したい(ずっと続けている「コツコツ読書」を中断したくない。鶴川図書館を無くさないでほしい、という小学生のメッセージを読み上げる)。市長の「しっかりと重く受けとめる」の言葉を忘れるわけにはいかない。しっかりと踏まえて、鶴川図書館とさるびあ図書館の存続を強く求める。

・大西議員(保守の会/3月22日)

Q:図書館職員は、一般事務職として採用されながら、他の部署に比べて圧倒的に長期勤務者が多い。その効用と弊害について。あるとすれば弊害はどのように克服できるか。

A(部長):長い経験を活かして司書資格を持つ嘱託員を指導するなど、円滑な図書館運営に役

立っている。弊害としては、広い視野などを身に付けられない可能性がある。今後は、他の職場と同様の移動サイクルにし、長期在籍者に頼らない運営を行っていく。

<議会報告についての意見>

菌田:前期の生涯学習審議会の委員長を務めていた。当時 2 年かけて出した昨年 3 月の答申は「図書館を減らしてはいけない」という内容だった。その次の審議会答申は、市の施設再編計画を前提として始まり、たった 3 回の審議で前期の答申とは逆の内容となっている。それなのに前期と今回の審議を合わせて十分に審議したなどというまやかしは、絶対に許せない。そのことを強く言っておきたい。守谷:いま図書館の職員は、常勤職員が 66 人(うち 10 年以上は 20 人)、嘱託職員が 101 人である。図書館の仕事は、長い経験の蓄積があつてはじめて可能であり、特に常勤職員は嘱託職員には認められていないような判断業務を担っている。議員が長期勤務者を問題視する意図は分からないが、部長が今後一般の異動サイクルに合わせて長期勤務者に頼らない運営を行う、と答弁していることとあわせて、図書館業務に対する認識の浅さ、不見識さに啞然とする。

2. 市長への要望書署名活動と「鶴川図書館大好き」絵とメッセージ(商店会 富岡)

団地の節分のイベントで募集した絵とメッセージを店の前に展示し、見た人から「廃止されるなんて知らなかった!」と新たに署名 872 筆寄せられた。絵とメッセージ募集を引き続き行い、署名活動もやっていく方向で検討する。5 月にバザーがあり、鶴川2中吹奏楽部演奏もあるので、アピールの仕方など提案してほしい。UR との話し合いで、商店街の建て替えは正式に断った。理由は、現在の 22 店舗、最低それだけないと団地の商店街の拠点として機能しないということである。5 軒の来年 3 月までの定期借家の店舗がその後継続できないこと、建替えに合わせてやめる店があればその後新しい店を作らないなど、UR の方針は受け入れられないものである。この先 10 年後、20 年後を考え、前向きに高齢者向けや若者向けの施設をつくり、コミュニティの中核としていく夢を見ていたが、これ以上前には

進めない。建築家 2 名から耐震性で建て替えよりも減築(4,5 階を壊して 3 階建てにするなど)のほうが安いと聞いている。

守谷:市は建て替えがなくなっても、鶴川図書館を無くす方針は変わらないというスタンス。商店街、図書館を共に活性化することを一緒に考えたい。

3. 「市長への手紙」その後

○手紙を送ったら、突然中央図書館の人から電話があり、出したきっかけを聞かれた。「地域の図書館がなくなると聞いて」と答えたが、逆に「図書館の方はこれでいいんですか?」と聞くと、「私は公共施設の再編は仕方ないものと思う」との答え。図書館を運営している人がそう言うのに驚いた。手紙を本当に市長が読むのか疑問。

○自治会の人で手紙を送った人もやはり電話があったようだ。

☆鶴川図書館の毎日の様子を紹介した文章が読み上げられた。「開館を待って、図書館を日常的に利用される方、駐車場を利用して、返却しに来られる方、保育園など団体で利用される方、レファレンスサービス(調べもの・探し物の手伝い)を受けに来る方、好きな本を読みに来る小学生、課題の本を探しに来る学生さん、親子で本を楽しむに来る方、など 様々な利用者さんがいらっしやいます。返却機と貸出機が 1 台ずつの小さい図書館なので、混みあって列ができる時は、カウンターでも貸出・返却を受けています。」

守谷:私が図書館に勤務した頃に図書館のコンピュータ化が始まった。当時はカード目録で、蔵書の検索も簡単ではなかった。図書館にとってコンピュータの活用は不可欠である。ただし、自動貸し出し機の導入については、当時から議論があった。市民の利便性というより、カウンターの職員削減が主な目的で、リクエスト本を利用者自身が貸出処理して借りていく方式も同じ。結果として、職員による人的サービスの機会が激減した。小さな地域図書館にこそ、図書館の原点が今も息づいている。

II. みんなで知恵を絞って、鶴川図書館を盛り上げるイベントを考えよう。

2つに分かれてブレインストーミングを行う。

A のテーブルの発表

* 鶴川は浪江度が創設した私立図書館 50 年の歴史があり、子どもたちに伝えたい。展示とレクをセットに。

* 酒屋の「まさるや」さんは全国的にも有名。夏休みに日本酒の蘊蓄を聞き試飲会などできないか。図書館に関連図書を紹介してもらう。

* 乗馬用品を売る店や、若者向けにいいコーヒー店もある。図書館とタイアップして。

* 古本市。図書館の再利用本を売って新しい本を買う資金に。

* 5 月 26 日のバザーになにか。テントを借りて出店できる。

* 最近鶴川団地に引っ越してきた若い人が、「団地暮らし」をインスタグラムで紹介している。

* 鶴川団地の HP もあり、今年の夏まつりは 5 丁目が担当。

B のテーブルの発表

* 絵とメッセージの展示と署名をどこかでも。街角ギャラリー、鶴川の横浜銀行、ポプリホール交流スペース

* 「鶴川図書館の一日」を映像にしてユーチューブに投稿。子どもたちのエキストラ出演を募る。鶴 2 中の図書部の生徒がシナリオ担当できるかも。こどもたちを巻き込みたい。

* 地域のコミュニティの先取りした形を示す。

* 夏休みの自由研究。ケーキ店や酒店、プラスハート(コーヒー店)などと、図書館が協力。講習会や図書館の本で調べ、ケーキなら作ってみるワークショップなど。

* 夏まつり(夕方):盆踊りやエイサーがあるが、本を使ったイベント、ビブリオバトル?

* 実行委員会を作り、中高生にも楽しく作っていく過程を味わってほしい。

III. まとめ(菌田)

イベントはスケジュールを立て、5月の学習会でまた話し合いたい。日程の近い 5 月 26 日は古本市、商店街と図書館の協同イベントや、自由研究のアピール(図書館とも話し合い)など。絵とメッセージの展示や、「鶴川図書館の一日」の映像化についても詰め、運動体の名称も考えてはどうか。

- 報告 -

第 17 期 図書館協議会 第 15 回定例会

2019 年 5 月 13 日(月)15:00~17:00

中央図書館中集会室 傍聴者なし

【館長報告】(Qは委員からの意見・質問⇒応答)

1. 人事異動 転出9名(内退職4名)、転入8名、館内異動 10 名(内再任用4名)

中央図書館奉仕係の全常勤職員及び再任用職員(嘱託員を除く)の担当名を以下のように変更。

①リクエスト担当・借用担当→リクエスト・借用担当/②児童担当・YA担当→児童・YA担当/③RM担当・H担当→RM・H担当/④AV担当・サービス担当→AV・サービス担当

Q:異動による司書資格の保有率は?⇒確認していないが、変わっていないと思う

2. 町田市議会定例会(第1回 H31/3/15~22)

(1)一般質問

・佐々木智子議員「会計年度任用職員制度について」:司書や調理員などを正規職員化し、職員定数拡大で根本的な「働き方改革」を実行すべきだと思うが…。⇒総務部長:導入に向けて正規と非正規の仕事の内容を整理し、見合う仕事をするようにする。正規職員化する考えはない。

・熊沢あやり議員「図書館のあり方」について

答弁⇒生涯学習部長

①生涯学習審議会の答申を受けて⇒答申に基づいて作成した/②図書館はどうあるべきか⇒めざす姿を実現する/③今後の図書館の役割について⇒情報提供だけでなく、目指す姿の実現のためのサービスを考える。

・殿村健一議員「図書館のあり方見直し方針」について 答弁⇒生涯学習部長

①「一般質問で採択された請願や生涯学習審議会の答申を無視したような方針が策定されたのはなぜか」⇒採択は、採用せず廃止する。

Q委員長:生涯学習審議会では廃止という言葉は答申の中に盛り込んでいない。図書館協議会でも廃止という意見は出さなかった。今後のスケジュールはいかがか⇒鶴川の建替えの話合いが停滞している。原案を作り18期の協議会に意見を求め、今年度末の議会で報告する予定。

Q委員長:返却ボックスや予約の受け渡し機能などを代替え機能といっているが、それらは図書館の様々な

機能の一部でしかなく、できるまでの一時的なものという位置づけだ。市民のニーズは図書館であり、図書館を要望する声はそれで充たされるものではない。

②「図書館のあり方見直し方針」の内容、及び2つの請願採択をどのように「図書館のあり方見直し」に反映させたのか ⇒鶴川の場合、地域の意見を参考にして検討していく。利用者の利便性を考慮し代替え機能の導入、地域のコミュニティ形成支援について検討する。「さるびあ」については、学校図書館支援・移動図書館の運行など独自機能を維持すること、今年度から地域の公共施設の建替えの検討が始まることを視野に入れて検討していく。

④採択された請願(鶴川図書館)の趣旨と市長への要望に沿って図書館を存続させるべきだがどうか⇒再編は進めるが、審議会答申や地域の意見を聞きながら進める。

・大西宜也議員「図書館の長期勤務者について」
答弁⇒生涯学習部長

①図書館勤務者は他部署と比較して圧倒的に長期勤務者が多い。この効用と弊害は?⇒66名の職員のうち10年以上勤務者が20名いる。嘱託を指導できる専門的な知識を持つ職員を一定数配置することで円滑に図書館運営がなされている。弊害として考えられるのは、広い知識や経験が身につかないのではということ。今後は嘱託員と正規職員の職務内容を明確化し、長期在籍者でなくても運営できるように是正していきたい。

Q委員長:図書館は一般職で採用されるが、司書の専門性はサービスの質を維持する上で非常に重要。大西議員の質問は的外れだと感じる⇒今正規職員がカウンターの仕事など単純作業をしているという発想ではないかと思う。図書館への理解のための説明が図書館として不足しているという面もある

Q委員長:図書館の見直しの観点として、市民や行政・議会にも理解を深めてもらうことが大切だ。専門性を持つ職員が人事交流で他部署に異動しても、また戻ってスキルを高めることも大事。

(2)文教社会常任委員会 (3/13)

(1)平成31年度町田市一般会計予算審議

図書館費は5943万9千円増加しているが、システム更改のための5000万円を含む。図書購入費は全体で117万円増。

(2)行政報告

・「町田市立図書館のあり方見直し方針」町田

市立文学館のあり方見直し方針」「町田市生涯学習推進計画 2019～2123」の策定について

・町田市立図書館と大和市長立図書館との 5 月 15 日からの相互利用協定の締結について

3. 教育委員会

(1)2018 年度 第 12 回 (3/14)

・「町田市生涯学習計画 2019-2023」/「第 8 回まちだ図書館まつり」の開催について/・大日本タイポ組合展「文ッ字」の開催について(文学館)

(2)2019 年度 第 1 回 (4/10)

・「第8回まちだ図書館まつり」(3/22～24)/合計 1266 人の参加。一日平均 400 人は前回とほぼ同じ/・市民文学館「世界の果てで生き延びる-芥川賞作家・八木義徳」(1/19～3/17)入館者 2,915 名

(3)第2回 (5/10) 議案

・第 17 期町田市立図書館協議会委員の委嘱及び解任について⇒17期の任期は7月迄。

4. その他

(1)「第8回まちだ図書館まつり」について

Q:特筆すべきは、各館、ボランティアが主体的に関わったことだと思うが…⇒図書館としても、「まつり」を盛り上げることと、協働で行うことについて徹底した。

Q:普段図書館に来ない子が、「まつり」に参加することで、その後図書館を利用するという波及効果が見られる/その他:PRの仕方、イベント表示、予算確保等について、まつりの状況報告と共に熱く意見が交わされた⇒今後、子育てサイトに力を入れていく。チラシについては予算や配布先を検討したい。

(2)2019 年度予算について

Q:図書購入費が前年度に比べて増加額が、少ないが…⇒市からの予算は、枠組みのなかから必要経費を引いて配分するため、図書費の増加額が昨年より少なくなった。

Q:図書館費が削られる中、システム更改の費用が5年ごとに多額にかかっているが、それは何とかならないのか…⇒今回は機器の入れ替えだが、全般的なシステム更改は10年ごとに行っており、5年後にまた費用が発生する。

Q委員長:国立国会図書館の MARC データは使用料がなく、以前より使いやすくなった。使用するマークの変更も検討されてはいるが⇒町田規模の図書館で使えるシステムに対応できるものが限られているので、その中で検討していくことになる。

(3)「町田市の図書館をデザインしよう！」

学習会形式で開催 (①2/17、②3/10)

のべ 30 人の参加。すすめる会の協力を得た。高校生の参加もあった。岡本真氏(ARG)の講演

後のワークショップで図書館に対する意見(行きたくなる図書館、私たちが図書館にできることについて)を出し合った。

Q:参加者の意見を図書館はどのように生かしていくのか。岡本さんが設定した課題は、難しかったのではないかと⇒今までの利用者懇談会のやり方では余り成果が上がらなかったため、その拡大版として学習会を企画した。図書館に興味がない人でも受け入れられるテーマで世代を広げた形で人を集めることも考えた。市民とコミュニケーションを取ることが大切だと再確認した。

Q:高校生の参加はあったが、中学生にも興味を持ってもらえる企画が必要/学習会はやりっぱなしではなく、今後に向けてのコメントも公表して欲しい/三鷹で若い人を対象に図書館サポーターを募集している。このような形で若い人にアプローチして広聴することも必要ではないか/生涯学習審議会が一番抜け落ちているのは現役の勤労世代だという話が出た。この世代が参加できるような方法を考えることも必要。

(4)「まちだ子育てサイト」図書館の子ども向けイベント情報の掲載が4/1からスタートした。

(5)大和市長との相互利用が、5/15～開始した

Q:京王沿線7市連携での利用の実態数値を出している市がある。町田でもアナウンスを丁寧にする、利用がさらに促されると思う/蔵書構成が違う大学図書館とのさらなる連携も希望したい。

【委員長報告】

・図書館友の会全国連絡会は、「自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律案」(第9次地方分権一括法案)に係る要望書を総務省と文科省に提出し、ロビー活動を行った。

【その他】

・定例会の回数について

館長:予算が確保できないので次期18期からは年6回とさせていただく。また、議事録についても、要点の議事録にしたい。

委員長:協議会の運営に関わることなので前もって協議会に諮っていただきたかった。以前、回数を減らした時に予算が回復したら元に戻してほしいと要望したことがある。回数は多い方が活動は活発になる、ということはいわれていることだ。

(報告:清水陽子)

第 16 回定例会 於:中央図書館中集会室

7月1日(月)15:00～17:00 (休館日)

傍聴希望者は、予め要申込

中央図書館へ ☎042-728-8220



ひろば

例会 4/23 (火) 報告

- 16:30～印刷・発送作業等：
久保・鈴木(真)・手嶋・丸岡・守谷
- 18:00～19:40 中央図書館・中集会室
出席：石井・伊藤・久保・鈴木真・
手嶋・松下・守谷

議題

1. 会報 (No.235) 記事について

第8回を終えた図書館まつりの報告(増山)、まちだ未来の会第21回学習会報告(鈴木真・守谷)「こんな本見〜つけた!」(未定⇒久保)、図書館協議会定例会報告(清水・山口)、他。

2. 2018年度の会計報告(決算)及び監査報告について

収入:217,789円、支出:52,880円、
次年度繰越金:164,909円
会計監査報告を経て承認。

3. 今年度の世話人について(審議せず)

4. 今年度の活動計画について(審議せず)

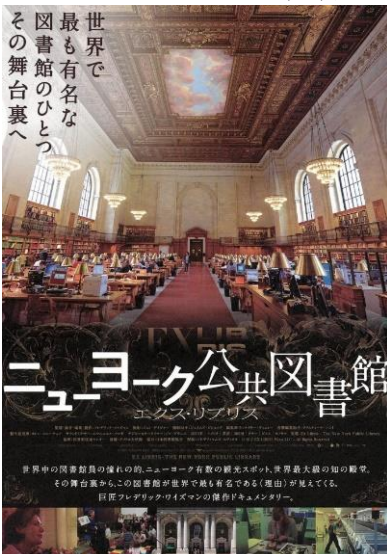
議題3.4.については、出席者が少なかったため、メーリングリストで呼びかけ、多くの会員が出席できる日時を設定した上で決めることに

⇒5月28日(火)に開催

5. 「町田市5ヵ年計画 17-21」「町田市公共施設等総合管理計画」等について

▷まちだ未来の会の取り組み

・第21回学習会「こんなに使える鶴川図書館」について <4月20日(土)実施済み⇒p5参照>



- ①現在進めている取り組み
- ②みんなで知恵を絞って、鶴川図書館を盛り上げるイ

ベントを考えよう

③“(仮称)鶴川図書館大好きの会”を立ち上げ、5月26日の商店街のバザーに参加する。

▷「すすめる会」の取り組み(変更なし、省略)

4. 学校図書館指導員について

その後の進捗状況(情報はなし)

町田の学校図書館を考える会

総会&6月の定例会を開催します!

6月8日(土)10:30~12:00

町田市生涯学習センター6階フリースペース

議題 2018年度活動報告 決算報告

2019年度活動案 予算案 他

5. 第8回まちだ図書館まつりについて(p1)

6. 図友連 2019年度(第13回)会員総会について

5/27(月) 於:日本図書館協会

出席可能な人を募る ⇒申し出なし

7. 図友連要望書案(文部科学大臣、総務大臣宛)について⇒会として、図友連の案を承認

報告

1. 団体及び個人からの報告

▷図書館嘱託労

・4月16日(水)、合同〔市職労・市役所ユニオン・図書館嘱託労・(仮称)臨時非常勤職員合同労働組合準備会〕で提出した要求書の回答が市当局より、市長・教育長の連名で届いた。

・6月13日(木)、第12回定期大会

図書館六分会協議会は、鶴川図書館の職員が亡くなり、1名減の状態のため、応援体制が組まれている。

▷野津田・雑木林の会

・5月19日(日)10時~14時/町田市民大学 HATS「多摩丘陵の自然入門」を野津田公園で開催。テーマ「虫捕りをして考える“原っぱ”という自然」 於:野津田公園上の原広場

《編集後記》手嶋さんの諸事情で、今号と次号の編集を手伝う事になりました。情報をお寄せください。(増山)

好評上映中! 映画『ニューヨーク公共図書館エクスプリス』

ワイズマン監督の描く「図書館は民主主義の柱」

・5月18日(土)~7月5日(金) ・10:15 ・14:15 ・18:15

・岩波ホール(神保町) 上映時間:3時間25分(途中休憩あり)

図書館は、本の置き場ではありません。

図書館とは、人なのです。